

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピースマイル 本店		
○保護者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性を深く理解したうえで行う専門性の高いリハビリ特化型の個別支援が安定しており、保護者からも高い信頼を得ている点	こどもが安心して集中できるよう、学習スペースと運動スペースを分けるなど環境の構造化と清潔な空間づくりを意識して整えている	保護者がこどもの学習状況や支援内容をより把握しやすくなるよう、情報共有の方法やツールを見直し、分かりやすい伝え方をさらに工夫していく
2	日々のコミュニケーションや丁寧な説明を通して、保護者との関係づくりを大切にしており、家庭と事業所が一体となって支援を進められている点	保護者とのコミュニケーションを大切に、送迎時や日々のやり取りを通してこどもの様子や支援の意図を丁寧に共有することを心がけている	こどもの興味や成長に合わせて活動の幅を広げられるよう、リハビリ特化型の専門性を活かしつつ、無理のない範囲で地域との交流機会を増やす方法を検討していく
3	活動スペースの構造化や環境整備、プログラムの工夫など、こどもが安心して集中できる環境づくりが徹底されており、支援の質が安定している点	こどもの特性に合わせた専門的なリハビリ支援を行うため、スタッフ間で情報共有を密に行い、活動が固定化しないよう多様なプログラムを工夫している	支援の質を安定して高め続けるため、スタッフ間の情報共有や役割分担の仕組みをさらに整え、個別支援と集団活動のバランスをより最適化していく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内での療育が中心となるため、地域交流や外部との連携の機会が相対的に少なく見える点	専門的なリハビリ支援に重点を置いているため、スタッフの時間や体制が個別療育に集中し、地域交流や外部連携に割けるリソースが限られやすいことが背景にある	保護者がこどもの学習状況や支援内容をより理解しやすくなるよう、情報共有の方法や伝え方をさらに分かりやすく工夫していくことが必要である
2	専門的な支援内容が多いため、保護者によっては学習状況や支援の深度が分かりにくい場面がある点	支援内容が専門的であるがゆえに、学習状況や支援の深度が保護者に伝わりにくい場面が生じやすく、情報共有の方法に工夫が必要となっている	事業所内での療育が中心となっているため、こどもに負担のない範囲で地域交流や外部との連携機会を少しずつ広げる方法を検討していくことが求められている
3	活動スペースや環境整備は評価されているものの、利用人数によっては一部の時間帯でゆとりが少なく感じられる可能性がある点	こどもが安心して過ごせる環境づくりを優先しているため、スペースの使い方や時間帯によっては活動の幅が広がりにくく見えることにつながっている	専門的なリハビリ支援の質を維持しながら活動の幅を広げられるよう、スタッフ間の役割分担や情報共有の仕組みをさらに整え、支援体制を強化していくことが必要である